

第160回 特定非営利活動法人 治験ネットワーク福岡
倫理審査委員会 議事録概要

開催日時	2026年3月3日(火) 16時09分～16時37分
開催場所	九州大学医学研究院 基礎研究A棟 セミナー室2 (福岡市東区馬出3-1-1)
出席委員	瓦林達比古委員長, 樽木浩朗副委員長, 安波洋一委員, 山本英彦委員, 島晃一委員, 河原直人委員, 庭山明子委員, 尾上真美委員
欠席委員	柳川堯委員, 永田一志委員
議題及び審議結果を含む議論の概要	<p>【審査事項】</p> <p>1. 臨床研究の継続の適否</p> <p><継続審査></p> <p>① 「再発難治性末梢性 T 細胞リンパ腫に対するニボルマブの有効性の検討：医師主導臨床第Ⅱ相治験」附随研究 W-JHS NHL02-A</p> <p>研究機関：九州大学病院</p> <p>・臨床研究の継続の適否について審議を行った。</p> <p>説明者より、研究実施状況の報告があった。委員から特に質問、意見はなかった。</p> <p>審議結果：承認</p> <p>② 未治療びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫患者に対するポラツズマブ ベドチン+R-CHP 療法の有効性と安全性を検討する多機関共同前向き観察研究</p> <p>研究代表者：九州大学大学院医学研究院 病態修復内科学 加藤光次</p> <p>研究機関：67 機関 ※当委員会において審査した研究機関</p> <p>・臨床研究の継続の適否について審議を行った。</p> <p>説明者より、研究実施状況の報告があった。委員から特に質問、意見はなかった。</p> <p>審議結果：承認</p> <p>③ 真性多血症におけるロペグインターフェロン治療後の JAK2V617F アリル量の推移に関する前向き観察研究</p> <p>研究代表者：愛媛大学医学部附属病院 血液・免疫・感染症内科 教授 竹中克斗</p> <p>研究機関：48 機関</p> <p>・臨床研究の継続の適否について審議を行った。</p> <p>説明者より、研究実施状況の報告があった。症例登録の取り組みや、疾患の判明経緯及び担当診療科について質疑応答があった。</p> <p>審議結果：承認</p>

	<p>2. 報告</p> <p><迅速審査：変更></p> <p>④ 真性多血症におけるロペグインターフェロン治療後の JAK2V617F アリル量の推移に関する前向き観察研究 研究代表者：愛媛大学医学部附属病院 血液・免疫・感染症内科 教授 竹中克斗 研究機関：48 機関 迅速審査結果：承認（2026年2月24日）</p> <p>⑤ 骨髄線維症に対するモメロチニブ観察研究 研究代表者：国立大学法人宮崎大学医学部内科学講座 血液・糖尿病・内分泌内科学分野 教授 下田和哉 研究機関：36 機関 迅速審査結果：承認（2026年2月25日）</p> <p>⑥ 未治療 B-CLL 患者に対する Acalabrutinib + Obinutuzumab 療法または Acalabrutinib 単剤療法の治療継続性に関する観察研究 研究代表者：独立行政法人国立病院機構 大阪医療センター 血液内科 科長 柴山浩彦 研究機関：52 機関 迅速審査結果：承認（2026年2月26日）</p> <p>⑦ EGFR Exon20 挿入変異陽性非小細胞肺癌に対するアミバンタマブ+化学療法の前向き観察研究 研究代表者：京都府立医科大学附属病院 呼吸器内科 准教授 山田忠明 研究機関：42 機関 迅速審査結果：承認（2026年2月19日）</p> <p>⑧ 進行・転移性腎細胞癌に対する一次治療（ニボルマブ+カボザンチニブ併用療法およびペムブロリスマブ+レンバチニブ併用療法）の有効性・安全性に関する多施設共同後方視的調査研究 研究代表者：東京科学大学大学院 腎泌尿器外科学 教授 藤井靖久 研究機関：24 機関 迅速審査結果：承認（2026年2月13日）</p> <p><確認事項></p> <p>⑨ 事務局より、当日配付資料に基づき、軽微変更 1 件を確認事項として取り扱ったことの報告を行った。</p>
特記事項	—

以上